

セカンドスクールに向けて その 10 「夏のスキー場の巻」

白馬村は 1998 長野冬季五輪以降、世界中からウインタースポーツを楽しむ多くの人が訪れる国際山岳リゾートとしての地位を確立しています。標高 3000m 級の北アルプスから広がる壮大な山岳地形には、豊富で良質なパウダースノーが降り積もり、初心者向きのゆったりしたグレンデから、上級者向きの総距離 8km のコースまで、さまざまな特徴をもつ 10 のスキー場が存在しています。



セカンドスクールは 9 月の下旬に実施ということで、さすがにこの雪の恩恵にあずかることはできませんが、白馬村のスキー場は冬だけではなく、雪のない時期も楽しむことができるスポットとなっているようです。

白馬のスキー場においては、春から秋までを、「グリーンシーズン」と位置づけ、登山やトレッキング、大自然を満喫できるアウトドアアクティビティを中心に、温泉、歴史や特産品などを加えた総合リゾートエリアとして運営しています。また、現在白馬では「**GREEN WORK HAKUBA**（グリーンワークハクバ）」というプロジェクトを進めています。きっかけとなったのは、2019 年 9 月、不安定な積雪など気候変動の影響を直感した地元の高校生が声を上げ、自然を守るための具体的なアクションとして行われた「グローバル気候マーチ」というものでした。これには子どもから大人まで多数の人が賛同、集まった署名を白馬村村長に提出。村民の声を聞いた長野県白馬村は、その年の 12 月に「気候非常事態宣言」を宣言しました。豊かな自然を守るために、気候変動の危機と向き合い、村民全体が力を合わせていくということを確認したのです。



「2030 年の白馬村」 白馬村 HP より

そして、このプロジェクトの一環として、

HAKUBA CIRCULAR VISION（ハクバサーキュラービジョン）という方針を掲げました。白馬村によれば、「持続可能な未来に向けて動き出すために、白馬村はサーキュラーエコノミーの考えを取り入れたビジョンを掲げます。地元住民や高校生、村外から集まった人々など多様なバックグラウンドを持つ人が共に話し合い、気候変動の問題に直面する白馬村の未来のあり方を考えました。」ということで、地域における具体的な構想が動き出しています。

サーキュラーエコノミーとは、大量生産・大量消費・大量廃棄のようなリニアエコノミー（直線型経済）だったこれまでの経済というものを直し、使用済み製品を廃棄せずに資源としてリサイクル・再利用して再度経済を循環させるというシステムのことをいいます。循環型の経済といえば、「持続可能な開発目標」である SDGs に関係するものとして捉えることができますが、実際、SDGs のいくつかの項目、例えば目標 12 の「つくる責任つかう責任」では「天然資源の管理や効率的な利用」、「廃棄物の発生を大幅に減らす」などがこれに当てはまりますし、目標 13 の「気候変動に具体的な対策を」や、目標 15 の「陸の豊かさも守ろう」などは、そのことを実現するための具体的な手段として、このサーキュラーエコノミーは重要な意義をもっています。白馬村ではそれについて以下のようなコメントを示しています。

白馬村の人々は、雄大な自然を遊び相手として暮らし、楽しみの中で多くの学びを得てきました。だからこそ、「サステナブル」という未来への挑戦も、遊ぶような気持ちで取り組もうと考えました。新しい知恵やアイデアを積極的に取り入れ、みんなで協力し、様々な企みに挑戦していきます。

大好きな自然を守りながら、自分たちの暮らしも豊かにする。
簡単ではありません。だからこそ、楽しみながら挑戦したい。
遊ぶように考え、集まって企み、手を動かしてつくる。
これからも、自然と遊びながら暮らす村。それが白馬です。



白馬村キャラクター
ヴィクトワール・シュヴァルプラン・村男Ⅲ世